

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102810		
法人名	株式会社ウェルフェアシステム		
事業所名	グループホームハイブリッジ		
所在地	栃木県宇都宮市若松原1-11-10 (電話) 028-688-5181		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年7月15日	評価確定日	平成20年8月5日

【情報提供票より】(平成20年6月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	7 人	常勤5人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算6.5人	
	7 人	常勤1人, 非常勤6人, 常勤換算6.5人	
	6 人	常勤5人(うち兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	2階建ての1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費—18,000円	
			・保守料—5,200円	
敷金	無		・寝具リース料—6,200円	
			・ベッドリース料—4,800円	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		685 円	

(4) 利用者の概要(平成20年6月25日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名	
要介護1		7 名	要介護2		8 名	
要介護3		8 名	要介護4		2 名	
要介護5		名	要支援2		2 名	
年齢	平均	84 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山口クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、幹線道路からやや奥まった、住宅・アパートが立ち並ぶ一角に位置している。中廊下でつながる形で「地域交流センター」があり、カラオケを楽しんだり、ボランティアの方々と積極的に交流を図ったりしている。管理者が声をかけたことがきっかけになって、近所の子どもたちが2か月に1回ぐらい遊びに来たりもしている。職員はやさしい雰囲気です。入居者に接しており、入居者に「ありがとうございます」という言葉が自然に出るような関係をつくっており、また、入居者との関わりから職員は「力」をもらっている。家族会があり、またホーム行事などに参加を呼びかけるなど、家族との接点づくりにも努めている。外出の時には非番の職員もボランティアで参加したり、管理者・職員が個人的に耕作している畑に入居者と出掛けたりと入居者との家族的な雰囲気づくりに努めている。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回は運営推進会議についてなかなか調整がつかずに会議の開催ができていなかったが、今年度に入ってこれまでに2回開催した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、各フロア(ユニット)ごとにフロア長が中心となってまとめ、最終的に管理者が目を通した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年度は出席者の予定が合わず開催できなかったが、今年度になってこれまでに2回開催した。家族、自治会長、民生委員、老人相談員に参加してもらい2時間程度をかけて報告や話し合いをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪問した際や電話で報告している。ホーム内には外出先での写真などを飾っている。また、担当職員・管理者が手書きで「活動状況報告書」を作成して送付している。預かり金は出納帳で管理し、領収書等とともに利用料請求時に送付している。職員の交代があった時は家族が訪れた時に紹介したり、活動状況報告書で報告したりしている。重要事項説明書にホーム及び市・国保連の苦情相談窓口を明記している。家族会があり、またホーム行事にも家族に参加の声かけをするなど家族との接点づくりに努めている。家族から意見や不満があったときには職員間で話し合い、解決・改善を図っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームと渡り廊下でつながる形で「地域交流センター」があり、定期的なボランティアの訪問があり、また近所の子どもが遊びに来る関係をつくっている。自治会に加入しており、祭り等に参加したり、餅が配られたりしている。8月には敷地内で花火大会を行っており、家族のほかに近所の方も誘っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者のプライバシーが守られ、ご家族との語らいも大切にされた環境の提供」をホームの運営方針としている。管理者は、家族的な雰囲気や地域との交流を大切に考えている。また、職員からは安全と自由の兼ね合いの中でその人らしさを大切にしている様子が聞かれた。	○	ホーム全体として大切にしていけるべきこと・大切にしていきたいことをホームの理念として言葉としてまとめていくことにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	普段の生活の中で、また会議や勉強会などで考え方や入居者の情報の共有を図り、家族との接点づくりをしたり、地域との交流を図ったり、少人数での外出など柔軟な支援に努め、方針の実践に向けて取り組んでいる。	○	管理者・職員でホームの理念について改めて話し合うことで、更に意識の統一を図りチームケアに活かしながら理念の実践を進めていくことにも期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームと渡り廊下でつながる形で「地域交流センター」があり、定期的なボランティアの訪問があり、また近所の子どもが遊びに来る関係をつくっている。自治会に加入しており、祭り等に参加したり、餅が配られたりしている。8月には敷地内で花火大会を行っており、家族のほかにも近所の方も誘っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前は運営推進会議についてなかなか調整がつかずに会議の開催ができていなかったが、今年度に入ってこれまでに2回開催した。今回の自己評価は、各フロア（ユニット）ごとにフロア長が中心となってまとめ、最終的に管理者が目を通した。		

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は出席者の予定が合わず開催できなかったが、今年度になってこれまでに2回開催した。家族、自治会長、民生委員、老人相談員に参加してもらい2時間程度をかけて報告や話し合いをしている。	○	今後も定期的な開催をしていくとともに、参加者に意見・助言をもらいながらホームの運営に役立てていくことを期待したい。また運営推進会議を通して地域との関係を更に深めていくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口となって市に報告相談等をしている。入居可能かどうかの照会などもある。昨年度までは市の介護相談員派遣事業を利用していたが、今年度は市の都合で休止している。	○	例えば運営推進会議で話題になったホームでの課題、あるいは地域での課題を市に相談するなど市とともにサービスの質の向上や入居者が安心して生活できるまちづくりと一緒に進めていく関係づくりをしていくことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した際や電話で報告している。ホーム内には外出先での写真などを飾っている。また、担当職員・管理者が手書きで「活動状況報告書」を作成して送付している。預かり金は出納帳で管理し、領収書等とともに利用料請求時に送付している。職員の交代があった時は家族が訪れた時に紹介したり、活動状況報告書で報告したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び市・国保連の苦情相談窓口を明記している。家族会があり、またホーム行事にも家族に参加の声かけをするなど家族との接点づくりに努めている。家族から意見や不満があったときには職員間で話し合い、解決・改善を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他事業所がないので異動はユニット間になるが、ユニット間異動は行っていない。入居者・職員ともにユニット間の交流があり、事業所全体での顔馴染みの関係づくりに配慮している。職員の担当制(受け持ち制)を取り入れている。離職で職員が変わるときには、周りの職員がフォローして入居者に影響が出ないように配慮している。		

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修には継続的に申込み・参加をしている。外部の研修を受講したあとは、報告書を作成し、職員間での知識の共有に努めている。月1回開催する会議では、その時々課題等について、ユニットごとに学習する時間を設け、半年に1回ユニット内研修をすることになっている。管理者は日々のケアの中で気になったことは、その都度職員に確認している。	○	今後も積極的に認知症介護実践研修などの外部研修を活用していくことに期待したい。併せて内部研修の充実を図っていくことにも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームとは顔のつながる関係をつくっているが、頻繁な交流などはしていない。以前は他のグループホームに見学に行ったりしたこともある。また、管理者は県外のグループホームの管理者と交流があり、電話で相談ごとをするほか、以前は月1回程度は行き来する関係をもっている。県のグループホーム協会には加入していない。	○	ホームとしては、今後地域の同業者との交流を深めていきたいと考えている。認知症介護実践研修等に継続的に申込み・参加をしていることも活かして、地域の中で交流や一緒にサービスの質を高めていく仲間づくりをすすめていくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みがあった時は本人・家族の状況、困っていることをよく聞き、ホームへの入居が本人のためになるかどうか考えている。入居前にはなるべく本人にホームに来てもらうようにしている。以前は宿泊も含めて3日程度「お試し」をしてもらうこともあった。入居当初は職員の関わり方を配慮したり、家族にまめに来てもらったりして徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮しながら、料理の下ごしらえや後片付け、洗濯物干し・たたみ、裁縫などを一緒に行っている。職員は、下膳する入居者に対して「ありがとうございます」と声をかけたり、一緒に座って入居者と話をしたりしていた。		

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者及び職員は、一人ひとりの状況をそらんじられるほど入居者のこれまでの暮らしや生活上の課題を把握している。ケアマネジャーが変わったことからアセスメント方式の見直しなどもされている。職員の担当制を取り入れ、また記録の方法にも工夫を加えて、入居者の日頃の言動から思いを汲み取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向は計画作成・見直しの前に聞いている。毎月の職員会議のほか、計画作成担当者・担当職員による月1回のミーティングを設けている。職員の気づきなどは、担当職員からフロア長、ケアマネジャーにつなげる流れになっている。	○	センター方式のアセスメントの一部を使ってみることも検討している。職員間での意識の共有や本人・家族と一緒にあって、本人がよりよく暮らしていくための介護計画としていくためにも、更なる取り組みの充実に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の設定期間に応じて定期的な見直しをしている。また、入居者の状態の変化等があったときには随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の対応が難しい時の通院付き添い、少人数での買い物、離れた場所にある畑に行つての畑仕事など柔軟な支援に努めている。また、中廊下つづきで地域交流センターがあり、ボランティアとの交流などを積極的に行っている。		

グループホームハイブリッジ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関に主治医を変える方が多い。ホームの協力医は月2回往診をしてくれるようになっており、また24時間連絡ができる体制になっている。協力医療機関の診療範囲外は家族の対応となっているが、難しい時は職員が付き添うなど適切な医療が受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは重度化・終末期の対応が困難であるとしており、要介護度が上がってきたときには家族と転居先について話し合いを持つようにしている。退居になるとときには転居先への橋渡しをして、入居者にダメージがでないように配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	言葉づかいや排泄時の失敗への対応など、入居者のプライド・プライバシーに配慮した支援に努めている。職員の話し方や表情などは穏やかで、「ありがとうございます」等、入居者を大切に思う姿勢が見られた。個人記録等はスタッフルームの鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課等は特に決めていない。入居者のできることに配慮しながら一人ひとりのペースで生活してもらうことを大切に考えている。読書、編み物、折り紙など本人の希望にそった支援に努めている。慌ただしさを感じるような場面はほとんど見られなかった。	○	昼食後の30分の食休みや入浴日の設定など、無理強いをしているわけではないが、基本形をつくっている部分もある。支援上の工夫も検討しながら、一人ひとりの希望・生活のペースにそった支援について追求していくことに期待したい。

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや後片付けなど、入居者のできることに配慮しながら一緒に行っている。味見をお願いしたりもしている。食事前には職員が献立を紹介している。食事中はテレビを消し、食材の話題などから入居者と会話をしていた。職員も一緒に食事をしている。検食として一人は入居者と同じものを食べており、その他の職員は弁当持参が多い。	○	現在は衛生上のことを考えて入居者が台所に立つことはないが、本人の経験やもてる力を活かす機会という意味でも、食事づくりについて再検討してみることを期待したい。また、家族的な雰囲気大切にしているということからも、同じものを食べるということについて再検討してみることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日別に入居者ごとの基本的な入浴日が決まっており、週に2日は入浴してもらうようにしている。午前中に入浴が多い。希望があれば決まった日以外に入浴も支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・たたみ、掃除、料理の下ごしらえ・後片付け、編み物、裁縫、折り紙、草花への水やり、畑仕事、買い物、散歩、外出などの機会をつくっている。また、隣の地域交流センターを活用してカラオケを楽しんだり、ボランティアと交流したりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候に配慮しながら、ホームの周辺の散歩や玄関先にテーブルを出してお茶を飲んだりしている。また、管理者が数人の入居者と一緒にトマト農家にトマトを買いに行ったり、畑に行ったりということもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックで開閉するようになっており、入居者が自由に外出できるという構造になっていない。家族には説明し、また外気に触れる機会をつくり息苦しさのない生活の支援に努めている。	○	玄関のカギ以外でも、安全と自由な暮らしの折り合いをどうつけるか苦心していることが職員からも聞かれた。今後も自由な暮らしの視点で話し合いや工夫を重ねていくことに期待したい。

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の訓練を実施することになっている。昨年度は1回のみの実施であった。災害時の対応マニュアルがある。地域の人々との協力体制づくりはこれからである。	○	いざという時のために、定期的な訓練を実施していくことを期待したい。また、運営推進会議が開催できるようになったことも活かし、ホームが地域にできることも踏まえて、地域の人々との具体的な協力体制を構築していくことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成を外部の管理栄養士に委託している。食材は地元の業者から毎日のように配達してもらっている。管理者や職員の畑の収穫物が食卓に並ぶこともある。食事摂取量を記録し、水分は回数で大まかな摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩の際に摘んできた草花をテーブルに飾ったり、折り紙で作ったアジサイやアサガオを壁に飾ったりしている。それぞれのユニットに畳コーナーがあり、またイスやソファなども置いて思い思いの場所で過ごせるようになっている。音、光等も適切に配慮し、空気のよどもなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスはホームで準備しており、ベッドはレンタルになっている。その他にテレビや家具などを持ってきている方もいる。写真や入居者の手作りの作品なども飾っている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。